

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.24

2016.5

乳がんのサブタイプとは？

前号の乳がん高度検診・治療センターNEW-す (No.23) では「数字でみる乳がん」と題して乳がんの統計学的なデータについて紹介しましたが、その中で乳がんの病期（ステージ）別の生存率にも触れました。

病期というのは、しこりの大きさやリンパ節転移、あるいは離れた臓器への転移などの有無により判定され、多くのがんではこの病期に基づき手術を含めた治療計画が立てられます。ただ、乳がん治療においては、病期も重要なのですが、エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体、HER2（ハーサー）などの組み合わせにより決まるサブタイプ分類の方が術後の治療方針決定には重視されます。そこで今回は、このサブタイプについて解説します。

もともとサブタイプ分類というのは遺伝子検査の結果により分類すべきものなのですが、大変手間と費用がかかるので、その代用として免疫組織化学的手法（組織の特殊な染色）の結果で便宜的に表現されます。すなわち、上記の3つの因子にKi67（乳がん高度検診・治療センターNEW-すNo.8参照）の値も加味して、ルミナルAライク、ルミナルBライク、HER2タイプ、トリプルネガティブの4型に分類されます<表>。こうした検査は手術標本、あるいは針生検の標本などを用いて、特殊な染色を施し、病理医により顕微鏡的に評価されます。



<表> 乳がんのサブタイプ分類

サブタイプ	ER	PgR	HER2	備考
ルミナルAライク	+	+	-	Ki67低値 and PgR高値
ルミナルBライク	+	+/-	+	
HER2タイプ	+	+/-	-	Ki67高値 or PgR低値
トリプルネガティブ	-	-	+	
	-	-	-	

ER：エストロゲン受容体、 PgR：プロゲステロン受容体

乳がんは、その60～70%が女性ホルモン（エストロゲン）に、また約25%がHER2に依存して増殖しますので、このサブタイプ分類により手術後の薬物療法を選択するのが合理的と言えます。すなわち、ルミナルAライクではホルモン療法単独、ルミナルBライクにはホルモン療法＋化学療法（HER2陰性）あるいはホルモン療法＋化学療法＋ハーセプチン（HER2陽性）、HER2タイプには化学療法＋ハーセプチン、トリプルネガティブには抗がん剤投与が標準的な治療です。ただ、もちろんしこりの大きさやリンパ節転移の有無なども重要な因子ですのでそれらの情報も加味して最終的には総合的に判断されます。

さらに詳しいことをお知りになりたいことがありましたら、乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。



市立貝塚病院
TEL：072-422-5865

